

# South Wind

サウスウインド Sep.2018 Vol.93

特集

## 世界のスポーツ！



### Contents / 目次

- 世界のスポーツ ..... 2
- 多文化共生社会をめざして ..... 4  
～災害時に共に支え合う関係づくり～
- Hear! Here Voices ..... 5  
～谷崎 聖子さん (宮崎市出身)～
- JICA ぼーぺんにゃん ..... 6
- 宮崎県国際交流協会ニュース ..... 7
- INFORMATION ..... 8

イースターの日曜日。トランシルヴァニア、カロタセグ地方の教会にて。きらめくビーズの鮮やかな民族衣装に身を包み、信仰告白式 (日本の成人式のようなもの) に臨む少女たち。

谷崎 聖子さん (ルーマニア在住)

☆谷崎さんのインタビューがp.5に掲載されています。

MIYAZAKI INTERNATIONAL FOUNDATION  
公益財団法人 宮崎県国際交流協会  
<http://www.mif.or.jp>



# 特集 世界のスポーツ

今年の2月、平昌オリンピック・パラリンピックで活躍するアスリート達の姿に、たくさんの感動をもらいました。また、FIFAワールドカップでは、各国の選手のプレイに拍手喝采を送った方々も多かったのではないのでしょうか。東京オリンピック・パラリンピックを2年後にひかえ、本号では、世界のスポーツを特集します。宮崎にお住まいの外国の方々や、いろいろな国のスポーツに造詣の深い方々に、その国で人気のあるスポーツ、他の国にはないだろうと思われるスポーツ、これぞ〇〇国のスポーツだ！等についてお聞きしました。スポーツを通して、世界の昔と今が見えてくるかも知れません。



## アイルランド ～ゲーリックフットボールと ハーリング～

どちらもアイルランドならではのスポーツで広い競技場でプレイされます。歴史も古く小さい頃からみんなに親しまれているスポーツです。ゲーリックフットボールはフットボールとバスケットボールそしてラグビーを合わせたようなスポーツです。アイルランドのプロのフットボール選手の中にはゲーリックフットボール選手出身の人もいます。ハーリングは特にアイルランド南部に強いチームがいます。ボールをスティックで打って、ゴールに入れます。ホッケーと似ていますが、ホッケーよりも歴史は古いようです。どちらも1チーム15人で競技し、スピード感あふれる70分間の試合展開の速いスポーツです。プロのチームはありませんが、試合になると観客は熱い声援を送り大いに盛り上がります。アイルランドだけではなくニューヨークやロンドン、などでも試合が開催されます。



## スーダン

スーダンでは、サッカー・バレー・テニス・卓球・水泳・乗馬・ラクダレースなどのスポーツに人気があります。特にラクダレースはたいへん古い歴史があります。



## バングラデシュ ～カバディ～

カバディはバングラデシュの国技です。バスケットボールほどの大きさのコートの中で「カバディ」「カバディ」と一息で言いながら相手にタッチして点数を獲得していくスポーツです。「カバディ」という言葉自体には意味はなく、声に出すことで心と身体を一つにするというもののようです。

## ～クリケット～

バングラデシュで一番人気のあるスポーツはイギリス発祥のクリケットです。野球場のような芝生の上で競技します。ボウラー（投手）がボールを投げ、バッスマン（打者）が平べったいバットでボールを打ちます。ボールは360度どこに打っても良く、競技時間もゲームによっては3日～4日間かかることもあり、途中ティータイムが設けられることもあるようです。4年に1回開かれるワールドカップは単独のスポーツイベントとしてはサッカーに次ぐ規模だそうです。2011年にはバングラデシュでワールドカップが開かれました。将来はプロのクリケット選手になりたいと思う子どもたちもたくさんいるということです。



## ミャンマー ～チンロン～

1500年以上もの歴史があり、通常は6人が円になって行います。トウという植物を編んだボールを使い、いかに美しいフォームで難易度が高い技を成功させるかを競い合います。伝統音楽が奏でられ、プレイヤーを鼓舞するなか、そのボールを蹴るときの美しい姿がポイントになります。高度なテクニックが勝負のカギとなります。



## 韓国 ～テッキョン～

韓国民族の基礎となる文化の一つで、原始時代から発達していると推測されるテッキョンは韓国の伝統武芸で独特のステップを踏み、足払い・投げ技で勝負が決まります。手を使ったり顔を蹴ったりできませんが、格闘技と異なり、相手を倒すためではなく精神修養のためのものです。昔は、野原や空き地など屋外でするものでしたが、1980年代から生活環境の変化により、室内で行われるようになってきました。韓国のユネスコ無形文化遺産にも登録され、国から認定された達人がテッキョンを守っています。



### モンゴル ～ブフ～

「永久に続く」「長く耐える」という意味を持つブフはモンゴルの伝統的なレスリングです。モンゴルの人達の文化の中で、このブフは、馬に乗ること、矢を射ることと並び最も重要なものです。競技者はソドク（ベスト）とショーダク（パンツ）を着てブーツを履き、広い草原で時間の制限も無く、地面に相手の足や手のひら以外の部分を押しつけるまで競技します。



### インドネシア ～ブンチャック・シラット～

ブンチャック・シラットは身体全体を使う伝統的な武術で、身体を鍛練するだけでなく、精神修行という一面もあります。インドネシアの学校では課外授業で教えられています。2012年以来毎年ブンチャック祭が開かれ、デモンストレーションが行われています。



### シンガポール ～キャプテンスボール～

小学生の頃から親しまれているスポーツで、社会人になってもみんなで一緒に楽しめるスポーツです。椅子の上にボールをキャッチする人が立ち、その人に向けてボールをシュートします。日本のポートボールにも似ていますが、競技者のプレイする範囲が決まっています。ルールがより複雑なようです。



### アメリカ ～サーフィン～

アメリカでの代表的なスポーツは、野球、ゴルフ、バスケットボール、フットボールそれにサーフィンです。そのうち、サーフィンは西暦400年頃にはその原型のようなものが存在していて、たいへん古い歴史を持っています。20世紀に入ると、ハワイだけでなくカリフォルニアさらに世界中にその人気が広がりました。サーフィン好きな人の中には、仕事の合間にサーフィンをし、サーフィンそのものが「自分自身の軸」「生活の一部」と考える人もいます。



### ブラジル ～カポエイラ～

カポエイラは2014年にユネスコ人類無形文化遺産に登録されたブラジルの国技であり、多彩な蹴り技が特徴の武術、ダンス、スポーツ、音楽などが融合した伝統芸能で、16世紀にポルトガルの植民地になったブラジルのつらい歴史を背景に持ちます。伝統音楽のリズムに合わせてお互いの動きを見ながら蹴る動きや避ける動きを即興でやります。蹴ると言っても相手に直接当てるのではなく、相手とのコミュニケーションを目的としているため勝敗はありません。観客も歌を歌ったり手拍子をしたりしながら応援します。「相手との調和」「個々の個性」「お互いを尊重し高め合う」などがカポエイラの考えであり魅力です。



### ニュージーランド ～ネットボール～

女子だけのスポーツで、ニュージーランドの女性にとっても人気があります。バスケットボールに似ていますが、ポジションによって動く範囲が異なり、ドリブルはせず、パスだけでボールを回し、シュートします。ニュージーランドだけでなくオーストラリアやイギリスでも人気があります。

### ～サーフライフセービング～

ビーチで行われるウォータースポーツです。海での安全を見守るライフセーバーが、スイミング、ランニング、サーフボードやカヌーを漕いだりしてその体力や技能を競い合います。ニュージーランドやオーストラリアではとても人気があって、観客もビーチから大きな声で応援します。

いかがでしたか。私たちにもなじみのありそうなスポーツや、似てそうだけ「ちょっと違うぞ!」と思えるスポーツ、そのルーツや歴史を知ると「なるほど!」とうなずけるスポーツを意外なエピソードと共に紹介していただきました。実際に観戦したり、体験したりすると、さらに理解が深まることでしょう。ご紹介下さった皆様、ありがとうございました。

# 多文化共生社会をめざして

～災害時に共に支え合う関係づくり～



地震、大雨、噴火など宮崎県でも自然災害が多く発生しています。(公財)宮崎県国際交流協会では、災害時に日本人・外国人が互いに協力しあえる社会をめざして、防災知識の啓発と災害時の対応について学ぶ講座を開催しています。

## 【平成29年度開催講座】

### 外国人のための防災講座(外国人対象)

(講師)宮崎県防災士ネットワーク 坂本 良成氏  
県内在住外国人を対象とした講座。災害時に地域住民をサポートしていただくことを目的に、災害のしくみや災害への備えについてお話しいただきました。



(参加者アンケートより)

- ・今まで地震・津波について具体的なイメージがなくて恐い印象しかなかったのですが、今回の講座で具体的な数字や画面で教えてくださったので防災意識が高まりました。
- ・あらためて地震の恐さを感じました。災害時自分が自分自身と家族を守ることが基本で、正しい知識や行動で生存率を高めることが重要だと感じました。
- ・避難場所がだいたいわかりますが、まだ確認できていない。これからいろいろ準備したいと思います。

### 外国人支援のための防災講座

(講師)熊本市国際交流振興事業団事務局長 八木 浩光氏  
熊本地震での支援の経験を元に外国人被災者の状況や平時のつながりの大切さについてお話しいただきました。



(参加者アンケートより)

- ・メディアでは知ることのできない外国人支援の実情がわかりました。
- ・大きな災害が発生したときに正直自分の命を守ることで皆精一杯でなかなか外国人の案内をしたり、文化の違いまでくみ取るのは難しい。だからこそ日頃の「つながり」を大切にしなければならないと思いました。
- ・「誰一人置き去りにしない…」という言葉が印象に残りました。弱者に対して丁寧に対応(=情報を隔々まで届けていく)していこうというのがとても良いと思いました。

### 外国人災害サポートボランティア養成講座

(講師)多文化共生マネージャー全国協議会理事 明木 一悦氏  
災害時に外国人をサポートする人材育成のための講座。避難所運営ゲーム(HUG)を通して災害時の課題や日頃の備えについて学びました。



(参加者アンケートより)

- ・災害時には予想もしない人数の避難者がどんどん来たり、生活に必要な物の配置など気をつけながら、とにかく急ぐことが大事だと感じました。
- ・外国人・子ども・高齢の方等さまざまな目線でシンプルにわかりやすく情報発信していくことの必要性がわかり良かったです。
- ・心構えや危機感の面、想像力の面で非常に刺激を受けました。

今後も防災に関する講座を開催予定です。詳細が決まりましたら、広報紙プラザニュース、ホームページ、Facebookでお知らせします。

# Hear! Here Voices

## <プロフィール>

宮崎市出身でルーマニア、トランシルヴァニア在住。大阪外国語大学ハンガリー語学科卒業後、ハンガリー、ブダペスト大学フォークロア学科に留学。現在はトランシルヴァニア地方の伝統的な手仕事を研究し、日本やアジアの国々で紹介する展示会やワークショップを行っている。

伝統手芸研究者  
ハンガリー文化コーディネーター  
たにざき せいこ  
谷崎 聖子さん



ルーマニア、トランシルヴァニア地方との出会いと、伝統手芸研究をライフワークにされたきっかけを教えてください。

大学でハンガリー語学科を専攻したのはほとんどが偶然でしたが、90年代末の当時、「東欧」という鉄のカーテンが開いたばかりの国々はどんなところだろうと漠然とした興味をもっていました。現在は小国のハンガリーが、実は第一次大戦までは大きな国で、周辺国に多数の少数民族が残っていることを知ったのは、後になってのことです。中でも、最も数多くのハンガリー人が住み、本国より伝統文化が色濃く残るルーマニアのトランシルヴァニア地方に興味を持つようになりました。一方で、ハンガリーの刺繍や民俗衣装との出会いは、「ハンガリーの花刺繍」という展示会のカタログでした。日本の着物はどれも形が同じなのに、地域によって形も違えばデザインも変わる、その多様性に衝撃を受けました。母がハワイアンキルトに携わっていたので、幼い頃からデザイン関係の洋書に触れたり、パッチワーク関係の展示会などに行ったりした経験も大いに影響していると思います。



カロタセグ地方の信仰白式の衣装

トランシルヴァニア地方の農村の文化や手仕事の魅力を教えてください。

トランシルヴァニアは森に囲まれた美しい環境の中で、ハンガリー人、ドイツ系ザクセン人、ルーマニア人という異なるルーツをもった三民族が共存してきました。そのため、町や村によって色彩が全く異なり、民俗衣装や手仕事においてそれが顕著に表れています。さらに社会主義国の中でもルーマニアは経済的に立ち遅れた分、逆に農村部は昔のままの状態が残ってきました。地方によっては、嫁入り道具として親や祖母から受け継いだベッドカバーやシーツ、枕カバーなどを持っていくところもあります。古き良きヨーロッパの本来の姿が垣間見えるところがトランシルヴァニアの農村部ならではの魅力だと思っています。



伝統的なベッドカバーと枕カバー

ルーマニアで生活をしていて日本文化との違いに関する面白いエピソードがあったら教えてください。

日常生活で未だに慣れないのが絨毯です。ここでは機織り機で織った細長い絨毯を廊下に敷いているのですが、部屋の間にあるいくつもの絨毯をひっくり返さないように気をつけながら歩くのに苦労します。日本ではすり足の文化ですが、そうすると絨毯の端をひっくり返してしまい、いつも旦那に怒られてしまいます。掃除をするのにもわざわざ外まで運んで、巨大な鉄棒のような絨毯叩き場にかけて叩きます。日本の畳の方がよほど掃除もしやすく、快適だと思います。

ルーマニアで毎年日本文化を伝えるイベントを主催されているようですが、イベントを始めたきっかけとイベントを通して感じたことを教えてください。

トランシルヴァニアの地方都市で暮らしてもう10年になります。日本人は私一人。周りから奇異な目で見られることもしばしばありました。子供たちもこの環境で育っていくのですから、少しでも日本人、日本というものを正しく認識してほしいという意味で日本の日を開催することにしました。一昨年の秋は3度目を数え、宮崎西高校時代の同級生でピアニストの本田奈留美さん、妹の真奈美さんを招待して、現地の民謡歌手と一緒にコンサートを開くこともできました。日本文化を愛する人たちとともに、生花の展示や、古事記、風呂敷や芸者、紙芝居など日本文化の紹介をすることができたのが一番嬉しいことでした。他にも幼稚園や小中高校、大学などで日本について話をさせて頂く機会が度々ありました。

数年前より春にトランシルヴァニア地方の手仕事を巡るツアーも企画されているようですが、日本の方に一番体験していただきたいことは何ですか。

トランシルヴァニア西部のカロタセグ地方は、ヨーロッパの中でも他に類をみないフォークロアの宝庫だと思います。民俗衣装を日常に装うおばあさんたちが道端で刺繍をしたりする姿もまだ見られます。各家に手作りの嫁入り道具を収めた「清潔の部屋」があり、刺繍のタペストリーで飾られた教会に伝統的な木造家屋、フォークダンスや音楽など伝統文化が今も色濃く残っています。しかし90年代以降は、社会の急激な変化とともに手仕事をするのはお年寄りだけになり、若い世代の人たちの価値観は大きく変わってきています。刺繍の美しさもさることながら、こうした伝統文化を継承してきたおばあさんたちが一番の財産ではないかと思っています。また世界規模でローカルな文化、伝統文化が失われていくこの時代、異国の文化に触れることで身近な日本の伝統文化の貴さを再発見して頂ければと思います。



イーラーシヨシュ(伝統刺繍)を紡ぐ農村の女性たち(上)と清潔の部屋(下)

これから挑戦してみたいことはありますか。

これまで古い刺繍や衣装を収集することに重きを置いてきましたが、今年は手仕事を学ぶことを目標にしてきました。刺繍を伝承するおばあさんたちが生きていらっしやるうちにできるだけ沢山の技術を学びたいと思っています。そうした記録を本として形に残すことが最終の目的です。



きらびやかな信仰白の衣装(上)とイーラーシヨシュで飾られた村の教会(下)



# ぼーペンにゃん vol.3



JICAデスク宮崎 国際協力推進員

田代 芽衣 Tashiro Mei

(元青年海外協力隊  
看護師としてラオスで活動)

☎: 0985-32-8457

✉: jicadpd-desk-miyazakiken@jica.go.jp

URL: <https://www.jica.go.jp/Kyushu/>



## ບໍ່ເປັນຫຍັງ

「ぼーペンにゃん」は、JICAや国際協力について様々なことを紹介していくコーナーです。

(「ボーペンニャン」は、ラオス語で「大丈夫」「気にしない」「なんとかなるさ」という意味)



### 「ボーペンニャン～ラオスの病院・看護編 協力隊の体験を通して」

皆さん、こんにちは！ JICAデスク宮崎・国際協力推進員の田代です。

私はラオスに青年海外協力隊として「看護師」の職種で派遣されていました。今回はラオスの医療事情や看護について、私の活動も踏まえてご紹介をしたいと思います。

ラオスの病院では、日本のような先進国と比較すると医療事情が整っていないのは想像ができますが、一番驚いたことは、入院している患者さんのお世話は食事から排泄・清潔に至る全ての役割を患者さんの家族が担い、日本での「看護」の部分が完全に欠落している、と感じたことでした。加えて、ラオスでは医療従事者が患者さんに対して優位的立場に立ち、威圧的な態度で接することが当たり前である現状にショックを受けました。そんな中、どのように活動を展開していけばよいのだろうと、初めの頃は発する言葉が見つからないくらいに悩みました。



患者さんは言葉どおり身体のどこかを患っている状態です。少なからず健常者よりも辛い精神状態を強いられていることにも変わりはありません。患者さんが辛い立場に立たされている現状というのは先進国も、開発途上国も関係なく、世界共通です。ラオスのナース達に「患者さんに対する優しい気持ち」を持ってほしいと心から願いました。ハッキリ言って、ラオス人ナースの注射や手技による看護技術は私よりも数段優れていました。私が彼らに伝えたいことは患者さんに対する気持ちの持ち方、それが何よりも一番でした。



彼らの文化背景や、歴史的背景に基づいた従来のやり方をももちろん尊重しながらも、2年間という長い月日をかけて看護師たちと向き合い、私の思いを日々彼らに伝えながら活動を展開していきました。「今この環境の中でできること。必要とされていること。」を念頭に置きながら、活動に携わりました。最終的にどの程度、ラオスの看護師たちに私の思いが伝わっているかは計り知れませんが、2年間を通してケンカをしたり笑いあったり、一日中できるだけ多くの時間を彼らと過ごしました。

そんななか病院では沢山のドラマを垣間見ることができました。朝から晩まで赤ちゃんを抱っこし続けるラオス人のお父さん達の姿や、1人の患者さんに10人くらいの家族が付き添い、夜中になっても誰ひとりとして帰宅しようとしめない様子。数名の同僚看護師の出産場面。この場では紹介しきれない数々の出来事がありました。ラオス人のたくましさや愛情、家族を大切に思う姿を身近に感じることができ、私自身も彼らから沢山のことを学ばせていただいた2年間でした。

「自分にできる国際協力が何だろう。」そう思い始めることで国際協力への第一歩は始まっていると思います。皆さんも一緒に考えてみませんか？気になった方はカーリーノ宮崎9階国際交流プラザにてお待ちしております。いつでもお気軽にお越しください。JICAに関すること、国際協力に関すること一緒にお話ししましょう♪

#### 【JICA九州メールマガジン】

JICA九州はもとより、所管地区(福岡県・佐賀県・長崎県・熊本県・大分県・宮崎県・鹿児島県)で開催されるイベント情報など、さまざまな情報を月一回、お届け致します。是非、ご登録ください。



<http://www.jica.go.jp/kyushu/mail/index.html>

#### 「ある国に宮崎人がおったげな…」 miten

各国で暮らした経験のある宮崎人が旅行では知ることのできないリアルな体験記をつづります。毎月続々更新中！バックナンバーも是非ご覧ください。 [WEB http://www.miten.jp/miten/modules/popnupblog/](http://www.miten.jp/miten/modules/popnupblog/)



JICAの事業について質問などございましたら、(公財) 宮崎県国際交流協会内JICAデスク宮崎までご連絡ください。  
TEL: 0985-32-8457 E-mail: [jicadpd-desk-miyazakiken@jica.go.jp](mailto:jicadpd-desk-miyazakiken@jica.go.jp)

# 宮崎県国際交流協会ニュース

## 次の講座を開催しました!

後期は  
9月開講!

### 日本語講座(初級)前期 4月10日~7月10日

初めて日本語を学ぶ外国人を対象に、宮崎での生活に必要な日本語力を身につけることを目的に開催しました。今回はのべ6か国、12人の外国の方が参加し、熱心に先生に質問しながらテキストの問題に取り組み、日本語の習得が進みました。



通年  
開講中!

### 日本語れんしゅう会 毎週水曜日・金曜日

日本語のレベルアップを目指す外国人を対象に通年開講している講座です。日本語ボランティアさんとともに教科書を使って文法を学んだり、新聞や興味のある本を読んだり、どの方も熱心に学習を進めています。



土曜日  
午前  
10:30~

### サタデー英語チャット(前期)

外国人ボランティアさんと英語で会話を楽しむサタデー英語チャットを初級と中・上級に分けて開催しました。参加者の皆さんは、英語圏の方だけではなくアジア出身の方も英語でおしゃべりを楽しまれています。いろいろなトピックを通して、交流も深まっているようです。



木曜日  
午後  
6:30~

### 国際ふれあいチャット韓国語(前期)

初級編では韓国出身の県国際交流員のユジンさんから韓国語の文字や発音を丁寧に教えていただき、自己紹介や簡単な会話ができるようになりました。中・上級編では韓国人ボランティアさんと、毎回様々なテーマに沿って韓国語でのおしゃべりを楽しみました。初級レベルの方から上級レベルの方まで毎回たくさんの方が参加しています。



火曜日  
午後  
6:30~

### 国際ふれあいチャット中国語(前期)

シンガポール出身の県国際交流員カリンさん、そして中国出身のボランティアさんと中華圏の文化や生活について楽しく会話をしました。また、日本とシンガポールの違い等話題も広がっています。



講座・イベントの詳細な内容につきましては、お気軽に(公財)宮崎県国際交流協会にお問い合わせください。当協会のHPやFacebookで講座・イベントの開催状況をチェックすることができます。ぜひご覧下さい。  
協会ホームページ <http://www.mif.or.jp/>

## 今後開催予定のイベント・講座

- 日本語ボランティア入門講座・講演会
- 日本語講座(初級)後期
- サタデー英語チャット(初級、中・上級)後期
- 国際ふれあいチャット韓国語(初級、中・上級)後期
- 国際ふれあいチャット中国語 後期
- 在住外国人向け防災セミナー
- 在住外国人支援のための研修会
- 外国人防災サポートボランティア養成講座
- 外国人のための防災講座(県民向け・外国人向け)
- 世界とトモダチみやぎ国際フェスタ  
(アートフェスティバル/日本語スピーチコンテスト)
- 国際理解講座(イギリス、イタリア、ドイツ)



## 「そのひとを追いかけて」

スタッフ 中島 由美子



1950年代、まだ渡航するのにパスポートが必要だったアメリカ統治下だった沖縄に、戦後の新しい時代の幕開けを自分の目で確かめに行ったひと。

今から30年前、年号がまだ昭和だった時代の1988年に、性別に関係なく活躍できる社会の実現を目標に掲げ、その先進国であるスウェーデンに視察旅行に行ったひと。

60歳を過ぎて毎年アメリカに語学留学し、世界中からの移民が集まる語学学校であらゆる国の方々と英語でのコミュニケーションを取り多くの友人を作り、彼らのホームパーティーにひとりでも躊躇せずに出かけて行ったひと。

70歳の古希のお祝いに、ブラジルのサンバをプロのダンサーと共にパフォーマンスし、大観衆からの拍手喝采を浴びたひと。

1960年代から70年代にかけて3人の子供を産み育て、フルタイムで仕事をしてきたそのひとは、まだ男女共同参画という言葉が世の中に認知されてなく、もちろんその法律が

施行される前から国際的視野をもって活躍できる女性の社会進出を目指して働き、活動してきた。そのひとは全部、今年83歳になる私の母である。

母がスウェーデンに視察に行った当時のデータは数字ではわからないが、現在のスウェーデンの専業主婦率はわずか2%、政治家の約半分が女性、出産や育児休暇を経ての復職は当然可能な社会で、女性の労働参加率は76%とのこと。私が子供時代、お友達のお母さん達のほとんどが専業主婦だった時代と比べると、今は日本の女性労働者参加率48%と約半数の女性が働く時代になった。先見の明のある先駆者たちの日々の活動が次世代に受け継がれていくことが、時を経て証明されることを実感する。

そんなバイタリティーのある彼女のDNAが私に影響して、国際交流の仕事に携わることになったのかなと思う。私も少しでもいろんな国・地域、そして次世代に何かをバトンタッチできたらと思う。

## ◇◇◇◇◇◇◇◇ INFORMATION ◇◇◇◇◇◇◇◇

## 外国人のための日本語講座(初級) ※要申し込み

県内在住の外国人の方を対象に日本語の初級講座を開催します。是非ご参加ください。

対象: 初めて日本語を学ぶ方  
日本語の「よむ」「かく」を学びたい方  
日時: 平成30年9月11日(火) スタート 全25回  
毎週火曜日・木曜日 10:10~12:00

場所: カリーノ宮崎9階 会議室

受講料: 無料  
教科書代: 2,160円(税抜)

申込方法: 所定の申込用紙に記入し、来館、郵送またはFaxにてお申し込みください。

申込先: (公財) 宮崎県国際交流協会

## 外国人のための日本語れんしゅう会

日本人ボランティアと日本語の学習をします。通年開講しており、いつでも参加することができます。

対象: 宮崎県に住む外国人  
日時: 毎週水曜日・金曜日 10:30~11:30  
場所: カリーノ宮崎9階 会議室

受講料: 無料

問い合わせ: (公財) 宮崎県国際交流協会

## 日本語ボランティア紹介

日本語講座やれんしゅう会に参加できない方に、日本語ボランティアを紹介します。学習場所や時間、内容は当人同士で決めます。

対象: 宮崎県に住む外国人

問い合わせ: (公財) 宮崎県国際交流協会

## 第13回アートフェスティバル

## 「外国人が見た宮崎」作品展 作品募集

テーマ: 「宮崎」

展示期間: 平成30年11月28日(水)~12月1日(土)

場所: カリーノ宮崎9階

※アートフェスティバル終了後、県内数カ所にて巡回展示を開催予定

応募資格: 原則として宮崎県に住んでいる外国人、または外国にルーツのある方

部門: 写真・絵画・書道・手工芸・その他

出品点数: 各部門とも1人2点以内

サイズ: 50cm×50cm以内

※詳細についてはお問い合わせください。

応募方法: 郵送、持参、またはE-mail

応募締切: 平成30年11月2日(金)

問い合わせ: (公財) 宮崎県国際交流協会

## 世界とトモダチみやざき国際フェスタ

## ボランティア募集!

12月1日(土) 開催予定の「世界とトモダチみやざき国際フェスタ」のお手伝いをして下さる方を募集しています。国際交流やボランティアに興味がある方はぜひ一度お問い合わせください。

日時: 平成30年11月30日(金) 14:00~18:00のうち数時間

平成30年12月1日(土) 10:00~18:00のうち数時間

場所: カリーノ宮崎9階 イベントスペース等

内容: ステージイベント準備、補助、各ブース受付等

問い合わせ: (公財) 宮崎県国際交流協会



# South Wind

サウスウインド  
Sep.2018 Vol.93



企画・編集 公益財団法人 宮崎県国際交流協会 第93号 2018年9月発行

〒880-0805 宮崎市橋通東4-8-1 カリーノ宮崎9階

TEL.0985-32-8457 FAX.0985-32-8512

●URL <http://www.mif.or.jp/> ●E-mail [miyainfo@mif.or.jp](mailto:miyainfo@mif.or.jp)

情報・意見などをお寄せください。

外国人との交流会など、国際交流に関する催しを計画している団体やサークルの情報をお待ちしています。また、国際交流に関する話題や体験談、意見なども協会にお寄せください。本誌に対する要望もお待ちしております。

